

第 2 回教育部研修会報告書

平成 25 年度教育部研修会を開催しましたので、以下にご報告させていただきます。

日 時：平成 26 年 1 月 19 日（日） 10 時～16 時

テーマ：「卒後教育について」

講 師：斉藤 秀之 先生（筑波記念病院）

会 場：山形医療技術専門学校

参加者：22 名

スタッフ：今野珠美（北村山公立病院）、鈴木健太（在宅リハビリ看護ステーションつばさ）、
鈴木孝氏（篠田総合病院）、佐藤有加（日本海総合病院酒田医療センター）、
新田俊介（鶴岡協立リハビリテーション病院）、西川護（三友堂病院）、
菅原麻理子（日本海総合病院）

研修内容：講師の所属する施設での教育体制の紹介、グループディスカッション

午前中は、リハビリテーション職員 200 名以上の組織をまとめている教育体制を紹介していただきました。事例も多く提示していただき、管理者としてどのように組織を動かしていくか、職員とどのように関わっていくか等を具体的に示していただきました。

午後からは、「専門性の追求と幅広い一般的知識の教育方法、介護領域の卒後教育について」「新人教育の中で、刺激がないと自主的に動かない、勉強しない新人に対しての対応方法と新人教育プログラム修了後の中堅クラス～ベテランの意識付けをどうしていくか」という 2 つのテーマについてグループディスカッションを行いました。参加者同士の意見交換を通して、どの施設でも悩み、良い方法を模索している事がわかりました。他施設の良い方法を取り入れ、翌日からの業務に活かせる内容となりました。



<参加者の感想>

鶴岡協立リハビリテーション病院 田中秀典

教育部の皆様、今回このような研修を開催していただきありがとうございました。OJTについては私自身も非常に悩んでおり、指導した内容が十分に伝わらない事も多く、表現を変えてみたり手順を変えてみたりと多くの時間を要する事もしばしばでした。口頭だけでなく積極的に見本を提示して実際を感じてもらう事も重要であると感じました。また、世代や個が求めている違いの理解も私には不足していると実感し、育成には違いを認め、その上で指導していくことも必要であると理解出来ました。